

自治会ルー記事：東雪谷東中自治会 「みんなでフリまるシェ」開催レポート

地域の笑顔がつながる、あたたかな秋の一日

11月中旬とは思えない小春日和に恵まれた2025年11月15日、東中公園にてフリーマーケットとマルシェを掛け合わせたイベント「みんなでフリまるシェ」が開催されました。実は自治会主催のフリーマーケットは、現在の地に公園が移転して以来20数年ぶりの復活です。住民の要望を受け数ヶ月前から準備を進めてきた本イベントは、単なる「売り買いの場」を超えた、心温まる交流の広場となりました。

掘り出し物と会話が飛び交うマーケット

会場には地域住民による23ブースが並びました。サイズアウトした子供服や大切に使われてきた生活雑貨など、品揃えは実に多彩。「これ、懐かしい!」「大事にしますね」といった会話が弾み、思い出を次の誰かへと手渡していく、顔の見える地域イベントならではの温かいバトンタッチが印象的でした。



大人も子供も夢中！体験とグルメ

お買い物の合間を彩る催しも盛りだくさんでした。特に会場を沸かせたのは、近隣の東京科学大学（旧東京工業大学）の学生によるジャグリング。華麗な技に子供たちは釘付けで、体験コーナーでも学生の優しい指導のもと真剣に挑戦する姿が見られました。また、輪投げやスーパーボールすくいも大盛況。昔ながらの遊びに一喜一憂する親子の横では、自治会青少年部による模擬店が軒を連ね、青空の下で頬張る焼きそばやフランクフルトの味はまた格別な様子でした。



次回はあなたも、この輪の中で

久しぶりの開催ながら、多世代にわたる大勢の方にご来場いただき、「また開催してほしい」との声も多く届いています。今回の成功を受け、東中自治会では次回の開催についても検討を始めています。今回お越しいただいた方はもちろん、来られなかった方も、次はぜひ東中公園へ足を運んでみてください。きっと素敵な「モノ」や「ヒト」との出会いが待っています。

(東雪谷東中・川口 真人)

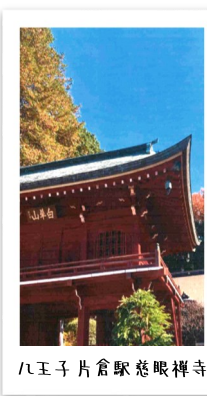
フットパスのおすすめ

歩行は健康の基本と言いますが1日5千歩、1万歩と決めても私にはとても続かない。日常的に同じ道を歩いて新しいものを発見することが下手に違う。

かつては百名山を日帰り登破なんて威勢よくやったこともあったが大きな手術で途切れ、復活出来ない内にじじー、体力が減ると気力も減り、腹だけでした。

さて、昨年散歩とハイクの間でのフットパスを知り、自分の解釈で以下の定義をした。

1. 自宅を起点に
2. 1時間の電車やバスでの移動
3. 1～2時間で数カ所の見所を散歩
4. 最寄りのバス停か駅から帰宅
5. 情報は出会う方、ネット、コンビニなんでもOK



八王子片倉駅慈眼禅寺

これで1万歩は余裕。可能なら1人がいい。頼りになるのは自分だけ、ちょっと不安な事態もあり非日常的な旅気分がある。更に道に迷うことしばしばで突然予想外の大きな観音様や見事な霊峰富士に出会う。

近郊には丘陵、自然公園、旧跡、良く手入れした庭園や禅寺、城址、森林などが沢山あり、あまり知られてなく訪れる人もいない。感動を独り占めした気分になる。

安心なのは、住宅地なので人通りがあること。

(笹丸・梅崎 潤)

編集後記

寒さも和らぎ、木々の芽吹きに春の訪れを感じる頃となりました。4月は新しい生活が始まる方も多く、心機一転希望に満ちた月のスタートです。表紙の作品は、春の訪れを感じて頂ける見事な屏風絵のような呑川沿いにあるお寺の風景です。

私ごとですが、「ふれあい雪谷」編集委員として皆様に支えられ取り組みましたが、本号をもちまして卒業いたします。ご協力頂きました地域の皆様、ご指導頂きました事務局、編集委員の皆様ありがとうございました。

(小池・小山 憲生)

[編集委員]

笹丸: 小林 忠雄/雪谷石川台: 長谷川 可織/南雪谷: 河野 洋一郎/
東雪谷東中: 小山 智恵子/東雪: 永久保 美代子/池の台: 宇佐美 恵美子/
小池: 小山 憲生/上池上: 高島 七重

ふれあい雪谷(創刊:平成2年12月20日) 年4回発行
(1月:新年号/4月:さくら号/7月:あさがお号/10月:もみじ号/の1日発行)
[発行日] 令和8年 さくら号 4月1日(通巻第142号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] ふれあい雪谷編集委員会
[連絡先] 大田区地域未来創造部雪谷特別出張所
〒145-0065大田区東雪谷三丁目6番2号 ☎3729-5117 FAX3729-1826

ふれあい 雪谷

令和8年4月 さくら号 通巻第142号



池上・養源寺

呑川沿いにあるお寺です。春は後ろの高台にかけて桜、桃、菜の花の黄色の三段に色分けて咲きそろう見事な屏風絵のようです。

小池・今成 修さんの作品



「雪谷地区のご案内」が完成予定です!

各自治会の活動内容やホームページ・SNSの紹介、便利なマップ情報などを掲載したパンフレットが4月中旬に発行されます。雪谷地区の魅力が詰まった内容になっています。ぜひ手に取って、新しい発見をお楽しみください。

雪谷地区自治会連合会

「ふれあい雪谷」のホームページは
こちらからご覧いただけます。



「自治会ウォーキング」のお話

上池上自治会では、「地域の歴史・環境・施設整備状況等を再発見」と「参加住民同士の交流の機会」及び「自治会活動への理解」等を目的に、地元有志による「ねがた桜まつり」とコラボして、2016年より毎年桜が咲く頃に「自治会ウォーキング」を実施しております。

この行事は、毎年決めたテーマをもとに「稲荷坂児童公園」をスタートし、途中の景色を見たり、話を聞いたりしながら「ねがた桜まつり」が行われる通称「すもう公園」までの約3キロをゆっくりウォーキングするものです。

毎年、子どもから年配者まで30名程度の住民の方の参加があり、見慣れた光景を会話や質問などしながら楽しく歩いています。

これまでのテーマとしてはいくつか設定しており、①景観のテーマでは、新大田区百景の1つである富士見橋からの「新幹線と富士山」等めぐり ②歴史のテーマでは、子安八幡神社・林昌寺・玉倉稲荷・庚申塔めぐり ③公園のテーマでは、地域内にある9の児童公園・広場めぐり ④みどりのテーマでは、大きな樹木・保存樹木・保存樹林・近隣農地・中学校花壇めぐり ⑤安全安心のテーマでは、防犯灯や消防団本部めぐり ⑥水の路のテーマでは、水路跡・洗足流れ・呑川等めぐりを行いました。

又、コース途中での休憩場所において、水分補給をしながら「抽選会」を行ったり「ねがた桜まつり」で地元商店や有志の協力による出店で使用できる「商品補助券の配布」等をし、参加者には「ねがた桜みち」や「すもう公園」の桜を観ながら飲食をして春のひと時を楽しんでもらっています。

これからもテーマを決めて自治会内の様々な有形無形財産を知っていただき、参加者同士や自治会スタッフとの交流を通して自治会活動への関心をもっといただくため、これに関わるスタッフともども多くの住民方に参加していただけるよう引き続き頑張っております。

(上池上・門倉 克叔)

洗足区民センター・ゆうゆうくらぶ洗足 ～あと一年～

東急池上線洗足池駅から東へ5分、洗足流れに沿った桜並木など、雪谷地区の魅力的な景観の中に立地する大田区立洗足区民センターをご存じですか？

昭和44年に設立された当初は大田区で唯一、区民センターに設置された高齢者宿泊施設として、60歳以上の方々の親睦・憩いの場として多くの区民の方にご利用いただきました。平成8年にはその役割を終え、文化の向上・地域の振興に寄与する目的へと変遷し、平成24年から指定管理者制度が導入されて以来、現在に至るまでの14年間、アクティオ株式会社が指定管理者として運営してまいりました。

当館は設立から57年が経ち、施設の老朽化も進んだことから、令和9年3月末で休館し、建替えをいたします。新センターは、『つながる・ひろがる地域の輪』をコンセプトとして掲げ、すべての地域住民の交流の場、まち全体が活性化する地域拠点を目指し、誰もがほっとできる安全・安心な居場所、全世代の学びの場、成長や発見を創出する施設となる予定です。

休館前のラストイヤーとなる今年度は、ゆうゆうくらぶにおいては体操・ポッチャ体験会・お楽しみ会・敬老の日コンサート等を企画しております。区民センターとしては、こども向けには折り紙ヒコーキ教室やサイテック科学工作などのイベント、大人向けには異文化講座などの教養講座、暮らしに役立つ防災講座、おとなの折紙教室や気軽に楽しめるロビーコンサート等の趣味のイベント、世代交流の場としてのポッチャ大会など、多彩な事業を計画しております。また、毎年恒例のさくらフェスティバルは、令和9年3月に開催予定であり、ラストを飾るべく計画中です。皆様どうぞご期待ください。

時代が変わっても皆様とのご縁を大切に、そんな区民センターであり続けたいとの思いを持ちつつ、新しい施設の完成を、我々もまた、楽しみに待ちたいと思います。

(洗足区民センター所長・大野 秀昭)



雪谷地区の表彰者

[敬称略]

【大田区区政功労者表彰】

清水 威徳

【大田区青少年表彰】

野口 灯り

【防災市民組織等感謝状(市民消防隊員10年)】

酒井 俊一 高橋 宏明

恩師の教えを体現するJリーガー ～絆のゴール～

サッカーJ1リーグ柏レイソル背番号20瀬川祐輔選手は高校まで全国レベルの試合経験はなく、一般入試で進学した明治大学でサッカー部に入部し4年で初レギュラー入り、2016年J2ザスパ草津からの誘いを受けJリーガーとなりました。その後はJ1の大宮・柏・湘南・川崎に所属し10年間毎年得点を重ね、昨年シーズン途中に優勝争い最中の古巣柏に復帰しました。

その瀬川選手は雪谷小学校を拠点として活動する雪谷FCの出身者で、サッカーの原点を学び師として仰ぐと語るのが雪谷FC代表であった大前卓也監督です。

大前監督は雪谷小学校でサッカー活動をしていた児童の保護者から要請を受け1987年に雪谷FCを設立、会社勤務をしながら月5～6回の土日練習と併せて毎日授業前の朝練習を行うなど、40年近く子供たちと向き合ってきました。

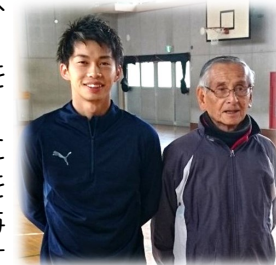
FC運営理念として「サッカーを通じて心身とも健全な人作りをすること」を掲げ、子供達にはチームの勝利のために①困難な状況でも決してあきらめない闘争心、②何事も自ら考え行動する自律心、③他者を大切に思い信じて助け合う心、の養成を求めてきました。

大前監督は瀬川選手とFC卒業後も連絡を取り、プロになった後もアドバイスを付けていきましたが、近年は「瀬川から反論を受けた」と嬉し気に語るなど師弟の絆を強く感じさせる場面を多々見てきました。

昨年8月、大前監督は自宅で眠るように鬼籍に入られました。7月末に米寿88歳を迎えられたばかりの大往生でした。訃報を聞き瀬川選手は、リーグ優勝争いを左右する試合を翌日に控えるなか、大前監督の自宅に赴きお別れの挨拶をかわしました。

翌日の浦和レッズ戦は前半浦和が2点を先行、瀬川選手は後半始めから交代出場、いつも以上に鬼気迫る勢いで相手ゴールに向かうと、柏の選手はその気迫に呼応、瀬川選手にパスを出し続けけるなか、相手選手にあたったボールがゴール前にいた瀬川選手に吸い寄せられるように届き追撃の得点につながりました。その後瀬川選手のアシストで日本代表であるエースが同点ゴールを決め、更に終盤に2点を加えた柏が逆転勝利を得ました。

現在数百名を超えるOBが教えを胸にそれぞれの道で瀬川選手と同様に努力を続け活躍しています。人材の育成に寄与した大前監督のご冥福を心よりお祈りするとともに、瀬川選手には更なる活躍を期待いたします。



瀬川選手と大前監督

(南雪谷/雪谷FC元コーチ・河村 圭司)



「根方」『雪月花』
高橋松亭 大正11年4月

大田区立郷土博物館提供